

中部圏における 大規模水素サプライチェーンの社会実装に関する提言



名古屋港



四日市港

2022 年 1 月

名古屋商工会議所
一般社団法人中部経済連合会
中部経済同友会

中部圏における大規模水素サプライチェーンの社会実装について

カーボンニュートラルの実現に向けては、2021 年 6 月に策定された『2050 年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略』で明示される「成長が期待される 14 分野」の産業区分を中心に、中部圏でも産官学をあげて取り組みが進められています。

水素は、発電・産業・運輸など幅広い活用が期待される究極のクリーンエネルギーです。また、水素はそれ自体がエネルギー源であるとともに、他の物質と反応させることで、アンモニアやメタンなど他の燃料に変換できます。さらに、これらはエネルギーを貯留する手段にもなるため、カーボンニュートラル達成に向けて欠かせない位置づけであります。

中部圏は伊勢湾を取り囲む三重県から愛知県、並びにその近隣県に渡る広範囲で工業が盛んで、国内最大の自動車メーカーをはじめとした各産業の工場などが多く立地します。その産業規模は日本最大規模を誇り、愛知県の製造品出荷額等は 43 年連続日本一の 47.9 兆円(2020 年)となるなど、東海 5 県（長野・岐阜・静岡・愛知・三重）の製造品出荷額等は全国の約 1/4 を占め、名古屋港の総取扱貨物量は 5 大港最大で 19 年連続日本一を堅持しています。また、大型発電所が複数存在し、四日市港にはコンビナート工業地帯が広く展開する等、CO₂ 削減と水素需要ポテンシャルは大きく、社会構造を変える最良のモデル地域であります。

以上の点を踏まえ、中部圏はカーボンニュートラル社会実現に向けた日本初の大規模水素サプライチェーンの社会実装を成功させる土壌が形成されており、水素社会実現のロールモデルとして最適な地域です。

当地が日本初の大規模水素サプライチェーンの社会実装を実現するため、政府・地元自治体・経済界が一体となって取り組むべきであると考えます。

2022 年 1 月 18 日

名古屋商工会議所会頭
一般社団法人中部経済連合会会長
中部経済同友会代表幹事

山本 亜土
水野 明久
加留部 淳

中部圏が持つ大規模水素実装に向けたポテンシャル

カーボンニュートラル社会実現に向けた水素の大規模受入・配送事業の社会実装を早期実現するために、中部圏は初の社会実装を成功させる土壌が形成されており、カーボンニュートラル実現を目指して日本の先行モデルとなり得る。

① 産業集積地としての需要ポテンシャルが高い

- ・わが国で最も重要な産業集積地として、エネルギー消費が大きい
- ・各産業のカーボンニュートラルに向けて、需要者が明確かつ需要拡大土壌がある



② 実装をにらんだロードマップが具体的である

- ・各産業の需要モデルとサプライチェーンモデルが具体的
- ・規制等の課題が洗い出されており、わが国のひな型として活用できる



③ 官民の地域一体となった取り組み

- ・産業界全体で横断的に検討を進める日本初の取り組みである「中部圏水素利用協議会」による水素の需要拡大と安定的な利用のためのサプライチェーン構築を目指した取り組みや、「名古屋港カーボンニュートラルポート検討会」の取り組み